





### 「アフリカの伝え方」

アフリカ理解プロジェクトの本づくりを通して

- 私のなかの3つの「はて？」
- アフリカのイメージ
- アフリカの伝え方
- アフリカ理解プロジェクトの本づくり
- パートナーシップ
- 質問
- 参加者コメント

アフリカ理解プロジェクト  
白鳥くるみ

### 私のなかの3つの「はて？」

1970年代 JICA協力隊ケニア帰国後？  
日本のメディア報道—ステレオタイプ？

1980年代 英国での開発教育調査で？  
著しはなぜ？英国NGOやメディアは開発情報を提供—  
日本は？

1985年 ライブアイド？  
国際救済術術を築めることに成功—アフリカの声は？

### 1985年エチオピア飢饉救済チャリティコンサート 「ライブアイド」のインパクト

ボジティブ ネガティブ

- 世界中で19億人が視聴
- エチオピアの飢饉の深刻さを認識させ寄付集めに成功(3億円の収益)
- ステレオタイプの強化
- 現地の声の欠如
- 一時的な解決策

LIVE AID

### 2003年「アフリカのイメージ」

アフリカ理解プロジェクトのための調査より

調査結果の概要

A. アフリカ理解プロジェクトの調査結果の概要

B. アフリカ理解プロジェクトの調査結果の概要

### アフリカの伝え方 報道の問題点

- 報道の偏り  
アフリカ問題の目次が大半がステレオタイプ
- 報道量の少なさ  
アフリカに関する報道量(日本の新聞2003年)  
(記事数の割合1.7%)
- 自国中心主義  
国際ニュースを報じる際、自国との関連を強調する傾向
- 報道の質  
報道が負面的で「深い内容」や「実態を伝えない」傾向あり  
や誤りが「アフリカの記事を主眼に指摘することが難しい」

### アフリカの伝え方 私たち自身の思い込み問題

- 分類本能 「世界は分類されている」という思い込み
- ネガティブ偏見 「世界はほとんど暗くなっている」という思い込み
- 連続本能 「世界の人口はたまたま増え続けている」という思い込み
- 恐怖本能 「危険でないことを恐ろしいと思える」という思い込み
- 過大視本能 「目の前の数字がいかに重要か」という思い込み
- パターン化本能 「ひとつの例のすべてに当てはまる」という思い込み
- 宿命本能 「すべてはあらかじめ決まっている」という思い込み
- 単純化本能 「世界はひとつの理由で理解できる」という思い込み
- 対人差し本能 「誰かを責めれば物事は解決する」という思い込み
- 驚き本能 「今すぐ手を打たないと大変なことになる」という思い込み

### アフリカの伝え方 アフリカ理解プロジェクトの本づくり2003年～

メディアや書籍のなかのアフリカ 少ないボジティブなイメージ

ボジティブなイメージからスタート 本づくりのゴール

- まずは身近な話題でアフリカへの関心を喚起
- 関心を喚起し、読者層に向けてアフリカの人々と共に楽しむ—行動する
- 読者層をさらに広げ、ネットワークを構築
- 関心や活動を通じ「意識を変えること」を促す
- ネットを通じて「情報共有」を実現

### アフリカ理解プロジェクトの本づくり 取り上げたテーマやトピックス

アフリカ理解プロジェクトの本づくりのテーマやトピックス

- アフリカ理解プロジェクトの本づくりのテーマやトピックス
- アフリカ理解プロジェクトの本づくりのテーマやトピックス
- アフリカ理解プロジェクトの本づくりのテーマやトピックス

### アフリカ理解プロジェクトの本づくり アフリカの人たちと協働で出版

アフリカの人たちと協働で出版

協働出版の事例

### アフリカ理解プロジェクトの本づくり 出版数と効果

出版数と効果

- 出版数と効果
- 出版数と効果
- 出版数と効果

### アフリカ理解プロジェクトの本づくり 本の収益を使った活動

本の収益を使った活動

- 本の収益を使った活動
- 本の収益を使った活動
- 本の収益を使った活動

### 協働出版プロジェクト—調査—セミナー開催 協働出版の事例

協働出版の事例

協働出版の事例

### アフリカ理解プロジェクトの本づくり 協働出版の事例

協働出版の事例

協働出版の事例

### アフリカ理解プロジェクトの本づくり 協働出版の事例

協働出版の事例

協働出版の事例

### まとめ

アフリカ理解プロジェクトの本づくりを通して アフリカの伝え方とパートナーシップ

- 現地の声を取り入れた書籍、ポッドキャストが読者層を拡大
- 思い込みを取り除き、正しいデータに基づいた情報発信を促す
- 継続的な活動を持つ
- 日本人のアフリカ「開発者」への関心を喚起し、さまざまな企業で関心や活動の土壌を育てる
- 現地の声を取り入れ、現地の人々と共に働く
- よりパートナーシップ、思いのこもった「協働」あり

## 参加者アンケート回答

1. 30代 教員 データや写真を掲示しながらお話しいただいたので、イメージしながら理解できた。
2. 20代 学生 アフリカの伝え方について、どんなことに注力しているのか、それがどのようなことにつながるのかを考えておられるのが伝わる内容だった。
3. 60代 市民団体 アフリカの現状が生活と密着したところから説明されてイメージしやすかった。
4. 50代 会社員 具体的な支援の話が日本でどう伝えられてきたかと本づくりの話が聞け、質問の時間もあり分かりやすかった。
5. 30代 その他 体験も含めて聞けて良かった。
6. 30代 その他 アフリカの実状が、情報として日本に入っていない様子が解く分かり、その点は昔からあまり変わっていない点に課題を感じた。
7. 40代 会社員 思っていたのと少し内容が異なったが、十分に参考になった。
8. 40代 その他 メッセージが一貫していてぶれず、分かりやすかった。
9. 40代 その他 シンプルだがあらためてポジティブなことも伝える。切り口を工夫する。
10. 20代 教員 アフリカに関わる話を項目い分けて話していただき分かりやすかった。
11. 20代 教員 経験をもとに整理されて話されていて、血肉の通った発表で勉強になった。
12. 60代 教員 ソフト面のアプローチ、アフリカの農産物が日本に伝わる、カカオ、コーヒーなどの価格上昇によって、チョコの値段が上がる…全くそうした風(?)情報が伝えられている。
13. 30代 教員 分かりやすかった。活動も素晴らしい。「今」のアフリカの話が聞きたかった。
14. 50代 教員 具体的な経験と実践に元づく発表で、大切な視点を確認できた。
15. 50代 教員 授業につながる例を提示いただき、実践につながるように、偏りのない正しい情報を子供たちに伝え、興味を持ってもらうようにしたい。

回答者の皆様 アンケートにご協力ありがとうございました。